



ミカド電装の情報サイト  
ミカドONLINEはこちらから

# ミカドONLINE

エネマネ最新情報

## 「逃げ恥」ならぬ「飛び恥」で 進み始めた飛行機の電動化



皆さんは「飛び恥」って知ってますか？ヨーロッパで急速に広まっている価値観で「二酸化炭素を膨大にまき散らす飛行機に乗るのは「恥だ」という感覚です。

### 航空会社が電車キャンペーン？



ヨット上のグレッタさん (Twitterより)

いまや世界的に有名な環境活動家でもあるスウェーデンのグレッタ・トゥーンベリさん(18歳)は、2019年12月にニューヨークで開かれた国連の温暖化対策サミットに参加する際にはヨットで大西洋を渡りました。

二酸化炭素を大量にまき散らす旅客機は、地球温暖化防止が叫ばれる現代においては空飛ぶ恥(Flight shame)であり、乗るべきではないという彼女の考えは若者を中心に共感が広がり、ヨーロッパでは「飛行機に乗るのは恥ずかしいこと」という考えが広がっています。逃げ恥ならぬ、まさに「飛び恥」ですね。

そのため環境意識の強いヨーロッパでは鉄道を使おうという機運が高まってきており、なんとあのKLMオランダ航空自らが、昨年6月に公表した企業CMで電車移動を呼びかけて話題となりました。

ちなみにある資料によれば鉄道を使った場合のCO2排出量は航空機の15~20分の1以下だそうです。

### 飛行機の電動化は小型機から

移動手段としては電動化が遅れている飛行機ですが、その原因はバッテリーの持続時間と重さにあります。しかし小型飛行機の方では、近年いくつか全電動飛行機のテスト飛行が成功しています。

### ①2019.12.10 世界初商用電動航空機の“試験飛行”が成功



①は一昨年の12月、商業電動飛行機として世界で初めてフライトに成功したカナダの水上飛行機会社「ハーバーエア社」の飛行機です。米国で航空機用電動モーターを手掛けるスタートアップ「マグニクス」のシステムを搭載し、約15分の試験飛行に成功しました。

### ②2020.5.28 “世界最大”の完全電動飛行機が米で初飛行に成功



②はアメリカのAeroTECとマグニクスが手掛けた完全電動飛行機「eCaravan」で、昨年30分間の初飛行を行いました。9人乗りですが残念ながら現時点ではこれが世界最大です。

課題が多い飛行機の電動化ですが、大型機に関しては化石燃料を使わない、あるいは使っても微量で済む方法なども模索されています。

モーターで飛ぶ小型飛行機は音が静かで制御もしやすく、大量の潤滑油を使用しないので油漏れの心配がないそうです。また燃料費も安い海外の自家用機ユーザーは電動化を歓迎しているとか。飛行機に乗っても「飛び恥」と言われない日が来るのを待ちたいですね。(ミカドONLINE編集部)

※飛行機の写真はカナダの水上飛行機会社「ハーバーエア社」と米国の電動エンジンスタートアップ「マグニクス社」のYouTubeから

「雑学・小ネタや  
当社の話題を  
編集部が  
ピックアップ!!」

# ミカドアラカルト



## 単位の歴史

### 日本よりも米国で有名な竜巻博士の藤田スケール

気象分野でノーベル賞があったら受賞確実だったと言われる日本人がいます。名前は藤田哲也博士(1920-1998)。藤田博士は1953年にシカゴ大学の教授に招聘されて渡米しました。やがて教授の勤めで本格的に竜巻の研究を始め、1971年に竜巻の規模を示す藤田スケールを考案しました。

アメリカにはそれまで竜巻の規模を表す単位がなく、記録されているのは発生回数だけでした。そこでミズーリ州カンザスシティの気象予報センター長であったアレン・ピアソンと共に、被害状況から竜巻の最大風速を推定する方法を編み出し、それが今もFujita-Pearson Tornado Scale(通称F-Scaleまたは藤田スケール)と呼ばれて国際的な基準になっています。

藤田スケールは実測する手段のない竜巻という自然現象にランクをつけたもので、地震の震度に相当します。藤田博士は後年、気象学界のノーベル賞と呼ばれるフランス国立航空宇宙アカデミー賞・金メダルを受賞し、「竜巻博士」として日本よりも海外で知られた存在となりました。

藤田スケールはF0からF6までありますが、一部をご紹介しますと以下のような感じです。

- F0 太い木の枝が折れる、道路標識が傾くなど(32m/s未満)
- F1 屋根がはがれる、走行中の車が制御不能になるなど(33~49m/s)
- F2 軽自動車・普通車が横転する、大木が根元から折れるなど(50~69m/s)



米国で竜巻の被害を調査する藤田博士

期限近づく  
高濃度PCB廃棄物処理!  
支援制度へのご相談は  
ミカド電装商事(仙台)へ

WHAT NOW  
ミカド!!

高濃度PCB廃棄物の処分期限が近づいてきました。東北地区の処分は北海道PCB処理事業所(室蘭)が行っています。処分可能期間は変圧器・コンデンサー等が2022年(令和4年)3月31日まで、安定器が2023年(令和5年)3月31日までです。

ミカド電装商事は、経産省「登録エネマネ事業者」環境省「CO2削減ポテンシャル診断機関」として、今年度も多くのお客様の“補助金を活用した地球環境への貢献”に寄与してまいりました。PCB高濃度廃棄物の処分に関しましても、条件等により国の支援策を活用できる場合があります。PCB高濃度廃棄物の処分でお困りの方、お悩みの方はぜひ一度、当社にお気軽にお電話ください。ミカド電装商事は中小企業の皆様の円滑で負担の少ない処分を支援する各種制度へのご相談に応じております。

0120-653-363 受付時間 9:00~17:30

## スタッフ紹介

さいとう じゅんいち 齋藤 淳一さん ソシオス・イー・パートナーズ株式会社

ミカド電装商事のグループ会社であるソシオス・イー・パートナーズ株式会社に小学生向けプログラミング教室の運営をしています。プログラミングスクール「プロスタキッズ仙台五橋校」の教室長と言ったほうがわかりやすいかもしれませんね。火曜と木曜が休みなので、月水金土日の5日間で勤務です。

前職は塾の先生をやっていた小学生から高校生まで何でも教えていました。今の仕事が前と違うところは、PCを触った事がない小学2~3年生の子供たちが、教室に通ってだんだん使いこなせるようになっていく様子がうれしいです!「タイピングが一番になった!」と目を輝かせて教えてくれるお子さんもいます。塾と違って子供達が楽しんでやっているので、私も気持ちが豊かになります。

趣味は野球観戦。メジャーリーグを見るのがすごく好きです。3月でちょうど1歳になった娘が一人います。



# カド電装 マイヒストリー④

History with Mikado Denso

時代と共に変わりゆく会社の姿を  
実務で支えています

ミカド電装商事株式会社  
取締役 総務・企画統括部長 三品 幣起  
(インタビュー ミカドONLINE編集部)

ミカド電装商事の歴史とエピソードを社員の目線で語っていただく「ミカド電装マイヒストリー」のシリーズです。第四回は三品幣起統括部長に、総務と財務の視点から近年のミカド電装商事とご自身の取り組みについてお話しいただきました。

## 会計と総務の視点から 会長や社長の思いをカタチに する方法を考えています

入社を経緯を簡単に教えてください。

三品 コンピューター関係の仕事を7年、監査法人に6年ぐらい務めて、その後当社に入社しました。

ハローワークに給与計算や社会保険や総務を担当する求人が出ていたので、前任の方と入れ替わる形でこちらに入り、会計や総務を長く担当してきました。

監査法人にいたので会計の理屈は知っていましたが、実務経験がほとんどなかったのが、最初は本を買ったりネットで調べたりしながら対応してきま

ました。

いまは会長や社長が今後やりたいことを色々考えていらっしゃるので、定型の業務をそこだけやっているというわけにはいきません。様々なプラ



がらすぐに、本屋さんに行つて、2〜3冊本を買ったりしました。—— どういったところを中心に勉強されたのですか？

三品 会社法とかが重要になってくるんですよ。あとは税金関係とか。それに持株会社に持つていくまでのスキーム、プロセスの組み立て方。何度も確かめながら間違いないように様々な方向から確認して、会長に相談して、何事もないうに問題が起らないように……地味な作業ですよ(笑)

—— お話を聞くだけでも難しく大変な気がします。

三品 手続きの基本は会社法の条文の中にあるんです。その条文の解釈の仕方ひとつとっても読み違いがあつてはいけないので、司法書士の先生や弁護士の先生など、専門家のところに行つて「こういう解釈で間違いないですか？」と逐一尋ねました。

ほかに、手続きはいつまでに何をしなくてはいけないのか?とか、あとは債権者保護手続き、自己株式の取得などにあたり色々本当にお世話になりました。

—— 今、振り返って思う事はあり

## 実現のための道のりを考える のが私の仕事

—— 持株会社になって3年経ちました。ひと山超えたというお気持ちがあるのでは？

三品 いやいやまだまだです。



ンを実際に何って、現実的なコミュニケーションをしながら実現への流れを組み立ててみたり、事案によっては税金を試算してみるなど、どうすればそれを具体的なカタチにできるかを常に考えています。

## 持株会社になりました。 それが最近一番の大仕事

—— 入社されて21年間の中で、一番思い深いことは何ですか？

三品 2017年にミカド電装商事がホールディングカンパニー制に変わり、当社の持株会社として新たにエースユニテッド株式会社の設立に関わったことです。その結果、私はグループ会社を統括する側の立場も兼務するかたちになりましたが、組織再編が行われるときの自分の役割としては、皆さんが普段目にするのがない法律や手続きの部分で勉強しなくちゃならないところがあるんです。

多角化経営をやりたいというのは会長から伺っていましたが、結構先かな?と思つていたら、「ホールディングス化を来年やりたい」というお話で、「そうですか」と言いながら会長や社長は今よりもずっと先を見ていて、たぶんやりたいことがまだたくさんあると思います。

私も小さな会社なので、何をやるにしても専任というわけにはいかず、目の前の実務をこなしながらやっていくことになるわけですが、まずは、グループ全体を見るうえで必要な連結会計を軌道に乗せ、次世代を担う阿部君(総務部長:阿部寛行)にちゃんと引き渡すのも自分の役目かな。彼は吸収が早く優秀なので心強いです。

—— 引継が必要な時期なのですか？

三品 役員の定年は今の規定では65歳になっています。まだ時間はありますが、できるだけ良いカタチで引継ぎができればと思います。会社としてこうありたいというところをカタチにするために何がベストかこれからも考えていきます。